

平成 30年度 山梨県立わかば支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	小中高一貫教育の利点を活かし、個に応じた教育活動の推進によるたくましい力とゆたかな心をもった児童生徒の育成
-----------	---

山梨県立わかば支援学校 校長 跡部 和男

本年度の重点目標	1 特別支援教育の推進
	2 3学部を通じた系統性・一貫性のある教育活動の展開
	3 安心・安全な学習環境の確保
	4 個に応じた指導の充実
	5 保護者・地域・関係機関との連携

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価							
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(1月17日現在)		
					自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	特別支援教育の推進	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 研修会による教職員の専門性の向上及び外部専門家の積極的活用 地域のニーズに対応したセンター的機能の発揮 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会開催・外部専門家の活用状況 実施状況・定期的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は研究部で「一人ひとりが主体的に取り組み、生活を豊かにする授業づくり」を主題として設定し、3学部で生活単元を取り上げて研究を進めてきた。実態別グループでの授業実践や全体での研究会の実施、また夏季全体研修では大学から講師を招聘し、授業実践について知識・理解を深めることができた。 本校配置の外部専門家(臨床心理士・言語聴覚士)による児童生徒の支援により、教員による児童生徒へのきめ細かい対応及び理解が深まった。 地域支援部が中心となり、センター的機能による地域支援活動(訪問支援・教育相談・研修支援等)を充実させることができた。また、「地域支援だより」の発行や交流研修会開催による外部への情報発信を積極的に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領が公示され、知的障害特別支援学校の教員に求められている資質・能力を高めていくために、各教科の専門性を基とした生活に生かすことのできる授業力の向上を目指して校内研修を充実させていきたい。 外部専門家を積極的に活用することができたことにより、各種事例に対応できたことから、一層の推進を図りたい。 地域諸学校等からの本校のセンター的機能への需要が非常に多くなっていることを踏まえ、対応するケースについての精選を継続して行っていく必要がある。
2	3学部を通じた系統性・一貫性のある教育活動の展開	3学部を通じた系統性・一貫性のある教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 学部目標の柱を統一することによる学部間における共通理解の促進 学部相互の授業参観や授業研究会への積極的な参加推進 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の実施・アンケートの実施 参観及び参加状況・アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程委員会を中心に、学部間の系統性、一貫性を踏まえた学部目標の設定を図り、「健康」「学習」「社会性」「主体性」の4つの柱による学部間の理解と意思統一を行うことができた。また、長いスパンによる学習評価の見極めや業務軽減の観点から、今後に向けて評価の2期制についても検討することができた。 昨年度から各学部の授業参観及び授業研究会をオープンにして、積極的な参加を呼びかけている。その成果も出て、他学部の授業内容・指導法について理解を深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学部目標の設定ができたことから、実際の学校生活の中で、教員が4つの柱について意識しながら指導支援していくことが必要となる。また、学習評価についても個別の指導計画と通信表の各様式の適正化と関連性を勘案し実施していくことが求められる。 学部相互の授業参観及び研究会は、教員の授業力向上に寄与することが実施後アンケートからも見て取れることから、次年度も積極的な参加を呼びかけていきたい。
3	安心・安全な学習環境の確保	安心・安全な学習環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新校舎に対応した防災・防犯に向けた危機管理体制の確立 施設・設備の定期点検による危険箇所の早期発見及び修復・改善 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの整備・避難訓練及び防犯訓練の複数回実施 対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> 地震を想定した避難訓練(3回)、火災を想定した避難訓練(2回)、夏季休業中の教職員のための消火訓練、「災害用伝言ダイヤル」による情報発信訓練等、主な災害場面を想定した訓練を行った。また、新校舎完成に伴い、保護者及び事業所等と連携した引き渡し訓練を実施することができ、実際に災害が発生した場合の対応についての課題も見えてきた。寄宿舎においても、定期的に避難訓練と防犯体制の確認を行い、非常時への対応に備えている。 年4回施設・設備の定期安全点検を行い、危険箇所や破損箇所をチェックし迅速な修理・修繕に努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ポイントを絞った避難訓練の実施により、防災・防犯への教職員の行動や対応方法が明確化してきている。また、災害時の保護者や関係機関との連携体制の構築も出来上がりつつある。今年度の成果を踏まえ、次年度も各種の防災・防犯のシミュレーションを重ねることで、迅速に対応し児童生徒の安全を確保できるような体制を確立する。 本校児童生徒の特性をふまえ、施設等の危険箇所の除去を最優先し、定期点検と日ごろからの細やかな点検を推進し、安全な学習環境を整えたい。
4	個に応じた指導の充実	個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した適切な指導及び必要な支援の提供 「キャリア教育発達段階アセスメントシート」による客観的な実態把握の促進 観点別評価による指導と評価の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> 活用状況及び提供状況・アンケート実施 アセスメントシート実施状況 観点別評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用することにより、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を充実させることができた。 「キャリア教育発達段階アセスメントシート」を改訂し小学部2年・5年、中学部2年、高等部2年の各学部で実施した。児童生徒の客観的な把握を教員間で共有することができた。 授業指導案では新学習指導要領に沿った観点を評価項目として、児童生徒に身に付けさせる資質能力を意識して評価することを教員間で共有できるようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画の記入について、児童生徒の障害特性や心身の発達段階、並びに合理的配慮の具体的な支援について適切に把握できるよう改善していく。 また、個別の指導計画と通信表の内容についての適正化と関連性を持たせるようにしていく。 発達段階を客観的に把握するのに効果のあるアセスメントシートを、次年度も継続して実施していきたい。 2020年度から順次新学習指導要領が全面实施となるので、教職員の観点別評価への理解をさらに深めていく必要がある。
5	保護者・地域・関係機関との連携(豊かな学校生活の実現)	保護者・地域・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡帳・学年通信・懇談会等を通じた共通理解と連携の強化 学校間及び分校との交流、共同学習や地域諸団体との交流の推進 関係者会議の実施による適切な進路選択の実現 校外学習や部活動等、体験を通して成長に資する場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 各種通信の発行・懇談会実施・アンケートの実施 実施回数及びその内容 年度末の進路決定状況 実施回数及びその内容 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年が作成している各種通信により、学校の予定や行事内容の考察等を各家庭に伝えることができた。また、連絡帳は保護者と学習状況や健康状態等についての情報交換を行う有効な手立てとなっている。 各学部及び寄宿舎とも計画的に学校間交流を実施することができた。交流の連携校からも内容やその効果について高い評価をいただいた。分校との交流も小・中学部で実施し、児童生徒の絆を深めるよい機会となった。外部からの刺激を受けることにより、本校の教育目標に掲げている「ゆたかな心の育成」に寄与している。 高等部の卒業予定生34名が進路先を決定しており(12月時点)、その決定過程において適切に関係者会議を開催することができた。 各学部の校外学習及び各部活動の活動とも、年間予定に沿って、実施することができた。教育目標にある「たくましい力」「ゆたかな心」の育成に資する貴重な体験の場となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に学校の様子を伝え、教育活動に理解を得ることは、円滑な学校運営には不可欠な要素である。次年度も、連絡帳や学年通信等を通して児童生徒の様子を伝え、連携を深めていきたい。 本校の児童生徒は、同年代の他校の児童生徒との交流を非常に楽しみにしている。また、連携校の児童生徒にも本校の様子を知ってもらい、障害を持つ人への理解を深めるよい機会だと考える。次年度も交流の内容を充実させて実施していきたい。 生徒個々の状況やニーズを踏まえて家庭や各関係機関とも連携を深めつつ、適切な進路選択を実現していきたい。 校外学習は、児童生徒の視野を広げる機会として教育的効果が期待できる活動である。次年度も、学習の目的を明確にして安全に配慮した校外学習の実施を目指していきたい。

学校関係者評価	
実施日(平成31年2月18日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の日ごろのご努力に頭が下がる。今後も多くの専門的知識や経験で、児童生徒たちに実生活に向けての適応力を身に付けさせてあげてほしい。ただし、先生方の負担軽減につながるような工夫も必要である。 入学者数が年々増加傾向にあるが、その内容を精査しわかば支援学校に求められていることを踏まえた活動をお願いしたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒を学年単位で見るとはならず、学年を重ねていく継続した過程で把握しており、一貫した教育活動は達成されているのではないかと感じる。 秋の学芸会は、児童生徒への教育的効果はとて大きなものがあると感じる。その成果を検証し、より実りのある学芸会に発展していくことを期待している。 各種公開活動及び各部活動が熱心に取り組まれており、成長期にある子供たちにとって教育的な効果は大きいと思われる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 災害はいつ発生するか予測がつかないため、その時の状況に適応できるような体制の構築を心がけていくことが必要である。今後も、避難訓練や火災を想定した訓練等の実施後に気がついたところは、順次改善して行ってほしい。 新校舎への改築が終わり、安全な施設・設備になったことはとてもよかった。自由な教育活動の場をさらに創り出す起点となるよう期待している。
3	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりへの対応は、先生方の最も苦労されているところだと思われる。先生方も自身の心身の健康に留意して業務にあたっていただきたい。 日々の教育指導の中で、児童生徒の実態に即した丁寧な対応が行われている。 中学部から高等部にかけて思春期にある生徒の中には、悩みや心配事等をうまく言葉で伝えられない生徒もいるので、寄り添った指導をお願いしたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中で、「わかば」の児童生徒たちが各々の個性を発揮して伸び伸びと生活していけるような環境を、地域社会全体でつくっていかねばならないと強く感じた。 特別支援学校は、特に地域との交流及びそのための情報発信が重要だと思われる。現在においてもしっかりと取り組まれているが、生徒たちが将来地域社会の中で仕事を得て生活していく基盤づくりのためにも、積極的な交流を期待している。 地区の団体等の協力により交流が盛んになり、開かれた学校が地区に根付くものとなると同時に、児童生徒にとっても自立した社会生活の基盤となるよう願っている。